

特集 大泉高生の選んだ大事件'83 断然『大韓航空機撃墜』

気の早い我々は、今年の重大ニュースのアンケートをとり、大泉高生が何を考へ思っているのか特集してみた。

☆大韓航空機撃墜事件

大方の予想通りの一位。事件が事だつたためか、皆の意見も多種多様であった。

「ソ連はいつか何を考へてんだかさっぱりわからない」(二年女子)

「ソ連側のこと行動に納得できない」(二年男子)

「空に国境のあることを知った」(三年女子)

「戦争になっちゃたらどうしようかと思った」(二年女子)

「正直いって『撃墜』という言葉を聞いて驚いた。映画の空中戦のシーンの中ではよく出てくる言葉だが、現実民間機を撃墜したというのを聞いたときはショックだった」(二年男子)

「ソ連のバカヤロ」(二年女子)

「社会主義の存在を根底からゆるがす大罪だ」(二年男子)

「旅客機を撃墜したソ連は確かに悪い。しかし堂々とソ連の上を通った大韓航空はもっと悪い」(三年女子)

「大韓航空機事件では領空侵犯した韓国側にも攻撃したソ連にも問題がある。片方だけ非難するのは片手落ちだ」(三年男子)

「ソ連が悪いとは思って、ソ連の人全部が悪いとは思いません。東京でポリシヨイバレエ団の公演があった時、韓国人が上演会場におしかけました。その人たちの気持ちもわかるけど、バレエ団の人たちは何の責任もないのだから、彼らを責めるのはおかしいと思います。もっと冷静に考へるべきではないかと思うのです」(二年女子)

「米日ソのどれが真実を語

っていたのだろうか」(二年女子)

「飛行機の乗客がかわいそうだ。うやむやで終わったみたいで感じが悪い」(三年女子)

「世界が航路をまちがえただけで落ちるとしてしまえば、怖いと思つた」(三年女子)

「あせつた」(二年男子)

「戦争の勃発につながり得た事件である。あやうくまだ戦争には発展していないが、今の世界の影で事が突然表面に表れて世界状況の深刻さを垣間見せられた思いである。」(二年男子)

「こんな事、許されるのか」と叫んでも声は闇に呑み込まれるのみの感じである」(二年男子)

「何でもないことだね。二度とあんなことされては困る。」(英語科M先生)

☆西武日本

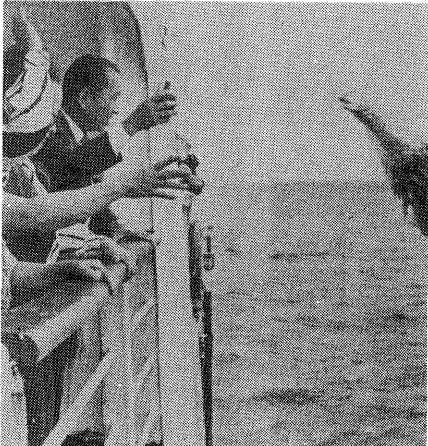
「最後まで巨人を応援したのに、くやしかった」(二年女子)

「巨人を助けての日本一だからうれしい」(三年女子)

「負けた巨人もすばらしい」(二年女子)

「今までの日本シリーズの中で一番すごい戦いだったと思う」(二年女子)

「定岡のばか。来年こそはがんばれ」(三年女子)



大韓航空機事件のあと
——遺族の悲しみ——

①大韓航空機撃墜事件 (12・4%)

「受託取崩罪に問われた元首相田中角栄に懲役四年の実刑判決。」

②西武日本 (9・5%)

「十一月七日、接戦続きの日本シリーズの最終戦、西武ライオンズV2をきめる。」

③田中角栄判決 (8・8%)

「十月十二日、「五億円の賄」で受託取崩罪に問われた元首相田中角栄に懲役四年の実刑判決。」

④三宅島噴火 (8・2%)

「高部知子フォークス事件」(7・5%)

⑤高部知子フォークス事件 (7・5%)

「大泉学園町一家惨殺事件」(7・5%)

⑥大泉学園町一家惨殺事件 (7・5%)

「アキノ氏暗殺事件」(4・2%)

⑦おしんブーム (6・0%)

「米軍グレナダ侵攻」(3・1%)

⑧アキノ氏暗殺事件 (4・2%)

「横濱浮浪者惨殺事件」(3・0%)

⑨米軍グレナダ侵攻 (3・1%)

「横濱浮浪者惨殺事件」(3・0%)

⑩横濱浮浪者惨殺事件 (3・0%)

「西友があまり安くならなかった」(三年男子)

☆田中角栄 有罪判決

「いつまでもさうさうしいはやく辞めるべきだ」(二年女子)

「新潟がそんなにかわいいか、ずいぶん練習に金をまわせい」(二年男子)

「現代の日本社会のいき詰まりを感じる」(二年女子)

「元首相がこういう騒ぎを起こすことだけでも、国民にとってはショックだった」(二年女子)

「現在の選挙制度そのものがまちがっていると思う。また田中角栄のような人達を支持

☆大泉学園町一家惨殺事件

「人を殺して、その肉をひき肉にしようとするなんて人間じゃない」(二年女子)

「なんで練馬区は変質者のな事件ばかり起こるんだあ」(二年女子)

「家のすぐ近くのことであつたのでひとこととは思えなかつた」(二年男子)

「うちの近くだったし、事件後出た幽霊のこともあつた」(二年男子)

「司法が政治の暗部にメスを入れたという点と総理大臣の犯罪が裁かれたという点で日本の戦後政治の大きな事件である」と考へる」(三年男子)

「でもまあ妥当な判決ではない」(数学科N先生)

☆その他の事件

「おしんブーム」

「おしん：大っ嫌い」

「なんにしろ山形が有名になつて発展してよかった」

「おしんは人間の鏡」

「だが作り話なのにこのフィーバーぶりは異常」

「アキノ氏暗殺事件」

「アキノの暗殺は許せん」

「事件の裏についてもっと知りたかつた」

「まだそんな野蛮なことをしている時代か、とがっかりした」

「横濱浮浪者惨殺事件」

「今の中学生はこわい」

「他には、『泰野法相の発言』、『沖野の自殺』、『猪木敗れる』、『隣りのボチが死んだ』、『某私立高入試失敗』、『木造と体育館が、こわされた』、『隣りの家の火事』、『また火事になるならあらかじめ知らせておいてくれ』などであつた」(二年男子)

OB訪問! ピンポンパンの 恭子おねえさん

「なんのこたかな ピンポンパン ドーナツふりたつピンポンパン……」

「フジテレビの幼児向け番組『ママとあそぼうピンポンパン』の主題歌である。その主人公ともいうべき、きょうこお姉さんが大泉高生だったというウワサを聞きつけて、さつそく取材に出かけた。

「うちの近くだったし、事件後出た幽霊のこともあつた」(二年男子)

「司法が政治の暗部にメスを入れたという点と総理大臣の犯罪が裁かれたという点で日本の戦後政治の大きな事件である」と考へる」(三年男子)

「でもまあ妥当な判決ではない」(数学科N先生)

「おしんブーム」

「おしん：大っ嫌い」

「なんにしろ山形が有名になつて発展してよかった」

「おしんは人間の鏡」

「だが作り話なのにこのフィーバーぶりは異常」

「アキノ氏暗殺事件」

「アキノの暗殺は許せん」

「事件の裏についてもっと知りたかつた」

「まだそんな野蛮なことをしている時代か、とがっかりした」

「横濱浮浪者惨殺事件」

「今の中学生はこわい」

「他には、『泰野法相の発言』、『沖野の自殺』、『猪木敗れる』、『隣りのボチが死んだ』、『某私立高入試失敗』、『木造と体育館が、こわされた』、『隣りの家の火事』、『また火事になるならあらかじめ知らせておいてくれ』などであつた」(二年男子)

「受かつたの。『赤毛のアン』を読んで以来、小学校の先生でもやりたいなと思つていたのだから……。その印象が強かつたのと、ピンポンパンは次のお姉さんを随分急いで捜していたので、入社半年で声をかけられました。歌とか作業のテストをして、一週間が決まったのよ。ピンポンパンのあのホットパンツが恥ずかしくて仕方がなかつたの。純情だったのよ、オープニングの「あの子にチュウしてピンポンパン」を言うのが恥ずかしくて、カメラを見ながらいけないうちに一月くらいはそでけうつわいて歌いました」

「素直な番組が受けない時代になって来たんですね……」(しみりり)

「ところで現在ほどのような生活を送ってらっしゃるのですか。」

「週に二日ドイツ語を習いに行つて、週末は八ヶ岳に馬のりに行つています。主人はNHK「おしん」の作曲をやつてますけど、私は主婦業と趣味の毎日です。昔から童話が大好きで、ドイツ語をしゃかり覚えたら、ドイツのメルヘンの絵本を翻訳したいんです」

「そうですか。出版される日を楽しみにしています。今日は色々有難うございました。」

「無邪気で、子供が好きで、そんなお姉さんをテレビで見ていた私達は、「あられちゃん」などからは得られない、何かあつたか、いものを与えられたと思う。子供には必要のない時代なのだろうか。あまりにも、淋しい話である……。毎日ピンポンパンを見て育つた私達、夢や冒険心を失わない大人に成長したいものだと心から思つた。」(C)

「しかし、それにしても大泉高生がこんなにも世の中の情勢についてまじめに考へていたとは予想外であつた。中には、「中曽根首相の不沈空母発言について」このアメリカ帝国主義と日本独占資本支配階級層に、本独占資本支配階級層に、(三年男子)という担当の記者を圧倒した発言もあつた。若者の無気力が大人の側から叫ばれている現在、このよ様な意見が結構あつたという事は、この大泉の将来にとって、とても心強いことだな、と感じた。」(K)

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が

「この83年といふ年を今さらながら振り返つてみると、本当に大事件の多い年だったな、と改めて思われる。二六九名が海の藻屑となつた大韓航空機撃墜事件のような国際情勢というものを、本当に考えさせられた事件。米軍のグレナダ侵攻や中曽根首相の不沈空母発言のように、相の不沈空母発言のように、何やらキナ臭い事件。大泉学園町の一家惨殺や横濱の浮浪者惨殺事件のような異常な事件。腹黒い政治家が





「声」

二年 稲葉由紀

ところで、幸せですか— あれから三十八年経って、戦争を知らない私は香気に暮らしている。あの広島街でさえ嘘のようだ。精一杯奮闘して平和を浪費して不平な微笑を作っている。少なくともあの娘はこんな瞳はしていなかった。

テレビで反核集会の模様が放送されていた。私よりも幼い子供達が反核を唱えている。怖い、と思った。まじまじに思った。

「戦争は恐いものだ。繰り返してはいけないよ」という言葉で、大人達は小さな瞳が尋ねる「どうして」には答えず玩具の戦艦を没収する。中学生の頃から新聞や街頭で唱えている平和運動が納得出来なくなった。原爆の映画を観て、少しだけ涙を流して署名をして、さも戦争反対・核軍縮に賛成したような気分になつて、そのくせ二時間後にはデイスコへ行って忘れてしまふような、そんなファッションみたいな風潮に反発を感じたのだ。

子供達にしても、サンタクロースを信じるのと同じように平和を祈っているのではないだろうか。平和運動が演進されて、低いレベルで動いているような気がしてまじまじに思ったのだ。

たかない、何も考えたくない、そんな瞳だった。その写真が目に入った瞬間背すじがぞつとした。本当に怖いと思った。人間の肉はかりでなく、精神をも、冷淡に奪い去っていく。あの瞳は確かに「父をかえせ、母をかえせ、平和をかえせ」と人間を呪っていた。人の心に少しでも戦争を許す気持ちがあるから、戦争があるのだ。家族を殺された、恋人を殺された憎しみが、また人間を殺す、その繰り返して人間同士が傷つけ合っていくのだ。人間には闘争本能がある。理性を失われた時、剣を抜く事は何千年前から繰り返されてきた。賢くも、賢くもなつた人間達が不幸にも発明した核を利用して「全体的破壊」を自衛行為的に行うのは、

私の瞳の中の三十五年前を、持ち去って下さい。三十五年前に時が戻つたならば、今ここであなたが吐き捨てた言葉を、あなたはあの戦火の中で叫べますか—

「負けたら、みんなそろって屋根に上り、腹を切ろう」と約束していた愛国少年達は、たまたま泣き、その涙の乾きの中で、生き残るしかない。ことを悟るだけであつた。荒れてはいたが、身内には優しかった集団が方向を失つて、仲間同士のためつけ合う全体主義の中で押しつぶされていく。

青春雑感



苛酷な群へと変つていった。大泉で中学生となつた頃、腹を満すためには近くの島の作物を盗みまわることや、教師の信頼を裏切ることもしばしばあつた。子供達の集団は、教師の心を離れた不気味な群へと落ちて行つた。そんな中で終戦を迎えた。



フラッシュダンス

大久保 俊男

夏の暑い盛りで封切られたこの映画は、木枯しの吹く師走まで四ヶ月のロングランを続け、興行収入二十億を越え、先月号に書いた「E・T」と併せて考えても、現在アメリカ映画界は一種のルネッサンスを迎えているようだ。男の子(この映画では実際は離婚した年かきの男だが)が女の子に出会う。二人は恋をする。途中で二人はいさかかたを繰り返す。原因は、多くはたまたま善意の行き違い、というふうなことで、観客は不愉快にならないように出来ていて、雨降って地固まる、という通り、二人の愛情は一層強くなる。更に、この仲直りには大抵の場合、何か世俗的、金銭的成功が付け加わる。全く文字通りおめでた

ちよつと拝借、一般紙より

大泉生の投書

いに姿を消す。幼い頃から町のシンボルであつた建物が消えるのはささかさびしいが、母の北口の切符売り場の上の「働く人」という絵が飾られていた。派手ではないが、なかなかゆつたりとした感じの絵だ。私が卒業した都立大泉高校の美術部が、昭和四十二年に寄贈したものだ。この絵は、電車の本数も少なかったころから、電車を持つ人がのんびりと絵を見ていた光景が想像できる。

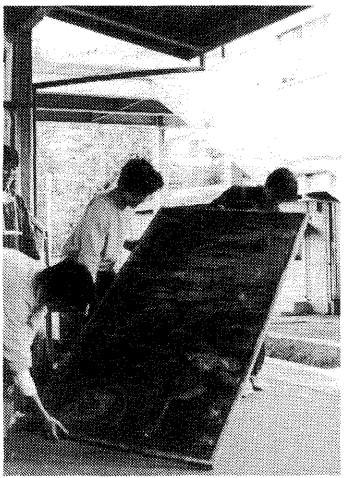
大泉学園駅飾つた「働く人」が母校に

西武池袋線・大泉学園駅の新駅舎が完成し、大正時代以来のトンガリ帽の駅舎が、ルメント活動や一部の学生運動の中で自分の主体性を作り上げようとするようになっていた。日本もそろそろ様子を始めていた。飢えと怒りのエネルギで作り上げて来た国が「豊か」になり始めていた。「豊かさ」の歪み、豊かさを支える価値観の貧しさ、それとの葛藤は今尚続いている。

飢えと荒廃からの青春

高橋 健三

まで部活に熱中し、あとは、それこそ殆ど寝る間もないような受験勉強に突入した。東大に合格はしたものの、大学生活は僕に失望した。心に奪われるような魅力的な講義もなく、色あせた知識の城であつた。独自の読書やセツ



絵を運ぶ美術部員



原爆が身近に 貴重な広島合宿

八月十日の三日間、ホームルーム合宿として、二学年全員が広島に行つてきた。核や平和について考えるのが目的で、夏休み前から資料を集めたり、学校で原爆映画を見た。合宿委員会は文化祭で研究発表もした。

私の学校は、ふだんは生徒の自主性に任せてくれるのだが、たまには無理やり機会を与えられるものもいふのだ。このような企画を立ててもらいたい。

最近、読売新聞にやたら大泉生が登場する。ある人は「活字になるのがうれしい」、またある人は「もうかるからうれいし」、活字になるのがうれしい人は大泉高校新聞にも投書下さい!!